

めざす児童生徒像

【自ら 高める子】
 児童自身が主体性と意欲を持ち、共に感化し合って充実感・達成感を共有し合いながら共に高まろうとしていく。
 徳・・・なかよく協力する子 知・・・かんがえてあきらめずにがんばる子
 体・・・よく遊び元気な子 礼・・・しっかり目を見てあいさつする子 なかよし

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
(学校重点項目)	温かい学級づくり	学級経営	学級力アンケートにおいて、学級ごとの取組を通して、評価ポイントの上昇を図る。	① みんなで決めた目標に力を合わせて取り組んでいる学級である。	78.9	93.5		14.6	①、②、③全ての項目において、児童が評価している割合が高い。①、②については、教員と児童の評価している割合に差が出た。9割の児童が評価している一方で、教員はの達成率は7割強である。これからの子どもの成長が、教員の評価達成につながっていくと考えられる。	これから子どもの言動を目標と結びつけて教員が評価することを通して、子どもの言動を価値づけていく。友達の良さを認め合う学級の雰囲気づくりや、道徳を中心とした授業の中で、良さを認め合う機会の設定を工夫する。
				② 学校生活で教え合いや助け合いをしている学級である。	94.7	93.3		-1.4		
				③ 友達のよさを認め合っている学級である。	78.9	93.3		14.4		
				④						
				⑤						
集計										
重点項目	働き方	業務改善	アンケートの全ての項目で肯定的評価をしている教職員が80%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	72.0				年度初めということもあり、4月の時間外勤務時間の平均は約5.9時間となっていたが、5月は約4.3時間と減少している。子供と向き合う時間として、改革が進んだと感じている職員は5.9%にとどまっており、業務改善への意識はあるが、実際に進んでいると感じられていないのが実情と思われる。	授業準備や分掌の業務について、協働したり、分担したりしながら効率よく業務を進めることの見直しを行う。見直しをもとに業務にかかる時間短縮を意識しながら、改善策を進めていく。
				② 業務改善を意識して、業務に取り組んでいる。	80.0					
				③ 働き方や業務の改善のために、実践していることがある。	68.0					
				④ 業務改善が進んだという実感がある。	56.0					
				⑤						
集計										

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童生徒	保護者				
小松市共通重点項目	学校研究	①～③の肯定的回答が85%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	95.5				昨年度から学力向上推進事業の指定を受け、研究授業や講師の招聘を計画、実践してきた。校内研修の内容を研究主題と関連させることで、全教職員が学びや課題を共有することができた。しかし、③の結果から、研修や研究授業などの特別な授業の取り組みの成果が日々の授業に実際に活かされている実感はまだ十分とは言えない。	校内研修での学びをどのように日々の授業に具体的に活かすかを、学年団やブロック研で考える時間をとる。特に、単元を通してのつきたい力の明確にした授業づくりを学校全体で行っていく。学力向上推進事業での推進校や協力校と連携を図り、その学びを全校で共有し、今後活かす。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	91.3						
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	82.6						
			④ 授業力アップシートの結果を受け、授業力の向上を図るための方策を実践している。	87.0						
			集計							
	指導力の向上	授業	②④⑥の児童の肯定的回答の割合が 前期 → 80% 後期 → 90%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	81.8	90.6		8.8	ほとんどの項目で児童の肯定的評価の割合が高いのに比べ、教員の肯定的評価の割合が低い。特に、発表力や記述力で教員と児童の割合の差が約30%になるなど大きな差が見られる。教員が児童に求める基準と児童が意識している基準に違いがあると考えられる。②の話し合う活動では、児童と教員の評価が共に高くなっており、研究主題の「対話を活かした学び」に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。	学年に応じた授業における児童の目指す姿を、教員同士が具体的に共有していく必要がある。そしてその姿をさらに児童に示し、共有化する。記述力や発表力については、教科や単元によって取り組みを絞って実践し、児童の良い姿を認め、意欲的に取り組めるようにしていく。また、互いの授業を見合う機会を作り、授業改善に役立てる。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	95.7	94.6		-1.1		
				③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	60.9	91.4		30.6		
				④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	54.5	93.3		38.8		
				⑤ 児童生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて(聞いて)、自分の考えを持つことができている。	86.4	94.7		8.3		
				⑥ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	87.0	93.6		6.6		
	集計									
	学力の定着	学力調査	①～③の肯定的回答が85%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	78.3				①については、これまでの取組の継続として国語の活用(条件作文)を鍛える学チャレや言葉のたから箱の使った作文指導を計画的に行っている。しかし、継続の取組であることで、マンネリ化が見られるのか、8割以下の評価となっている。②については、それぞれの部での取組がはされており、計画的に進められていると感じるが、検証については、これから行う予定であるので、肯定的な評価が8割以下になると考える。③については、小中連携推進事業として年数回の会を開催する予定をしているが、情報を共有する機会は、これまでに1度あっただけで、評価も6割となっていると考える。	夏季休業中に全体研修会をもち、今年度の学力調査の結果を分析し、2学期からの取組を確認する。ロードマップにおいては、各部で1学期の検証をし、修正を行う。8月に小中連携の会を開催し、松陽中学校区の授業づくりや学力向上についての取組を交流する予定である。
				② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	72.7					
				③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	60.0					
④										
⑤										
集計										
家庭学習	家庭学習	②の肯定的回答の割合が80%以上	① 自分で計画を立てて勉強している(3年以上)	75.0	94.0		19.0	①については、「目安の時間を達成する」という目標を設定した。児童と教職員で大きく差がある。今後は児童と教員間で目指すべき姿について、共通理解を図っていく必要がある。②については、目標となる割合は越えた。今後も「目安の時間を達成すること」に重点を置き、学年や児童の発達段階、個別に配慮すべきこと	①については、第3回家庭学習強化週間の前に、学級指導をしていただく。「目安の時間を達成するとはどういうことか」を児童と教員とで、共通理解する。②については、第2回家庭学習強化週間の結果をもとに、各学年に応じた指導を継続・徹底したい。	
			② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	90.9						
			③							
集計										

令和3年度小松市立苗代小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	目標 いじめの早期発見・早期対応と未然防止を図る。	①いじめ調査の1回目を6月に実施した。対策会議を開いて対応にあたる事案はあがってこなかったが、あがってきた案件に関しては、学年で速やかに対応にあたることができた。その後の様子や、学年で対応したことに関しては、児童理解の会で職員に共通理解を図ることができた。いじめの早期発見、未然防止の観点から、いじめ対応アドバイザーの木下先生から全職員向けにお話をいただき、いじめの定義なども含めて再確認することができた。 ②学級力アンケートの1回目を6月に実施。1年生をのぞく各クラスで、クラスの良い所、弱点を出し合い、良くなるための目標や具体的取り組みを決め、目標達成に向けて取り組み、ふり返ることができた。	
	具体的取組 ①いじめ調査の実施による早期発見・早期対応 ・年間3回いじめ調査・担任による追跡調査を行い、学年会や児童理解の会での情報共有に生かす。 ・いじめ対策会議を開き、対応方針を決定、実行する。 ②学級力アンケートの実施と活用（いじめの予防） ・学級力アンケートを年3回実施する。 ・学級をよりよくするための目標及び具体策を決め、全員が目標達成に向けて取り組む。		
特別支援教育	目標 個に応じた適切な支援を行う。	①特別支援学年会や児童理解の会での情報共有や担任による気づき票、授業担当者や特別支援教育支援員からの情報提供により、個々の児童の実態把握に努めている。それにより、個別の支援シートの作成が必要な41名の児童がはっきりしたので、個人懇談会での保護者からの家庭での様子も聞きながら夏休み中に個別の支援シートを作成する予定である。 ②については①実施に向けて準備中である。 ③については今年度は発達検査を実施し、それを基にした「個別の教育支援計画」を作成する児童5名がいる。「個別の教育支援計画」や個別の支援シートの内容を職員が共有し、支援に活用していきたい。	
	具体的取組 ①1学期中に配慮、支援が必要な児童について担任を中心に実態把握、共通理解をし、夏休み中に支援策の策定を学年会及び校内委員会で行う。児童理解の会等で全職員への周知を図る。 ②特別支援教育コーディネーターが10月頃に1年生を対象に読みのスクリーニングテスト（MIM）を実施し、その結果をもとに2・3ステージレベルの児童に対して11月頃から各学級で少人数指導を行う。（コロナ対応で少人数指導が難しい場合はクラス全体に指導する。） ③学年が上がっても必要な支援の引継ぎが行われるように個別の支援シートの活用に取り組む。		
児童会活動	目標 児童の主体的自治的意識を高める。	①児童集会を6月に実施した。5・6年生は体育館に集まり、1～4年生についてはzoomを使っての参加となった。全校が集まって集会をすることができなかったが、児童集会を開催するために児童会のメンバーが計画や準備など主体的に活動することができた。 ②仲良くしよう会を7月に実施した。6年生は下級生に楽しんでもらうために計画・準備を意欲的に行い、本番も積極的に異学年に声をかける姿が見られた。他の学年においても、ゲームを通して学年・男女関係なく関わる姿が見られた。	
	具体的取組 ①児童集会の企画・運営を児童会が主体的に取り組み、自分たちでよりよい学校を作ろうとする意識を高める。 ・年2回 6月、11月 ②児童会主催の縦割り活動を実施することで、学年を超えた児童の関わりを増やし、高学年のリーダーとしての意識を高める。 ・学期に1回（年3回） ・全校を縦割りグループに分けて活動を行う。 ・第2回以降から次年度を見据えて、5年生中心の活動に移行していく。		
道徳教育	目標 道徳の授業力向上を図る。	・実践を残していくために板書をフォルダに入れてもらった。板書を活用して授業交流までいけていない学年も多かったので、2学期以降、学年会や教材研究の際に授業交流を少しでもできるよう声かけを行う。 ・1学期、授業参観で道徳の授業を公開した学級は18学級中11学級であった。	
	具体的取組 ・板書の写真を活用し、各学年で発問や板書の仕方などを交流し、授業力向上を図る。（学期に各クラス1枚は入れる） ・道徳の授業を年間1回以上、保護者や地域の方に公開する。		
安全教育	目標 自分の命は自分で守る」という意識の育成。	・火災を想定した避難訓練を計画通り5月に実施した。避難経路（避難出口）を見直した方がよい箇所があったり、窓の開閉等において反省点も見られたりした。その反省を次回に生かしていく。 ・マスクの着用、手洗い、廊下を走らない等を委員会の取り組みと関連させて児童に呼びかけた。また、全職員の共通理解のもと、児童の安全意識の育成に努めることもできた。今後も継続していきたい。 ・校内の消毒作業も職員分担のもと継続していたが、日々の清掃活動においての水拭き作業を徹底させることにより、消毒作業の見直しを図っていく予定である。	
	具体的取組 ①年3回の避難訓練（火災5月、休み時間10月、地震から火災1月）や不審者対応の防犯教室を夏休み前、地震に対しては7月にシェイクアウト訓練で初期対応の確認、10月の避難訓練後に救助袋体験（3年対象）、防火扉体験（6年対象）も行う等年間を通して計画的に実施し、安全意識を高める。 ②日々の生活の中から安全意識を高め、安全な行動ができる判断力を育成していく。（昨年度のけがの状況調査をもとに） ③感染症に対して、手洗いの徹底、ハンカチの携帯を推奨し、健康・安全意識を高める。		

学校関係者評価	・保護者の意見の中に交通マナーのことがあったようだが、通学路上で中学生と交差するなど危険なところがある。通学路は自分たちだけという意識があるのか、車にも気づかず、またよける様子もない。友達同士話し合ったり、とても楽しそうに歩いている様子もあるし、頭を下げて会釈をしていく児童もある。子どもたちの安全を守るためにも学校でも指導をしてほしい。 ・歩いている児童に挨拶してよいか迷うことがある。子どもたちに顔を覚えてもらうことで、より良いコミュニケーションが取れるようになると思う。 ・校内を歩いてみて、廊下の体操服などがきちんとかけられていて、きれいになったと感じた。先生方の指導が行き届いていると感じた。 ・パソコンの導入により、子どもたちの態度が変わったことはあるか。（個別の理解状況などがつかみやすくなった。集中して取り組む態度や教師の話をしっかり聞こうとする態度が育っていると感じられる。） ・パソコンの活用にあたってはぜひブラインドタッチができるようにしてほしい。社会に出たときに必要なスキルである。 ・ITの進歩が目覚ましく、新しいツールによってこれまでできなかったことがどんどんできるようになってきている。今の子どもたちが社会に出たときにはもっと進歩しているであろう。そのためにも小学生のうちから基礎をつくっておくことが大切である。 ・企業では、英語を使った会議がどんどん行われ、外国の人と話す機会が増えている。これからは英語でのコミュニケーションが当たり前になっていく。文法より話すことから英語の力をつけていってほしい。
----------------	--